

市街地縁部の住宅地域におけるバス交通に対する住民意識

京都大学工学部 正 員 天野光三
 京都大学工学部 正 員 中川 大
 京都大学大学院 学生員 坂井信夫
 京都大学大学院 学生員 ○生田正洋

1. はじめに

バス交通の抱える問題点は多種多様であり、それを抜本的に改善し得るような決め手となる方策を見出すことは難しく、地道な努力を積み重ねていくことによってバスの信頼を取り戻すことが重要であると考えられる。そこで、この研究は、住民アンケートから住民のバスに対する信頼度や時間的な利便性についての意識を探り、今後のバス交通改善に役立てることを目的として行う。

2. 対象地区の概要

調査対象地区は、京都市北区西賀茂及び鷹峯地区とした。両地区とも京都の市街地の北縁部に位置する住宅地域であり、バスへの依存度は高い。バスの定時性に関しては、西賀茂地区では良く、鷹峯地区では悪い傾向が見られる。またフリークエンシーについては系統にもよるが、全般に西賀茂地区の方が高い。

3. 住民アンケートの実施

住民アンケートは、各戸を訪問して調査の協力を依頼しアンケート票を配布、後日再度訪問して回収する留置回収方式とした。西賀茂地区、鷹峯地区でそれぞれ300票ずつを配布した。回収率は西賀茂地区で78.3%、鷹峯地区で85.7%であった。

4. アンケート結果とその分析

① 時刻表の所持について

「自宅近くのバス停の時刻表をお持ちですか」という質問に対する回答を図1に示した。フリークエンシーの劣る鷹峯地区では実に6割の住民が時刻表を持っており、西賀茂地区とは対象的である。鷹峯地区の主要系統のフリークエンシーは昼間時に2～3本/時であり、この程度のフリークエンシーでは利用時にバスの時刻を気にせずにバス停に向かうことはできないと多くの住民が考えていることがわかる。

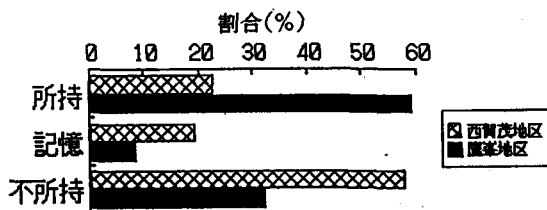


図1 バスの時刻表について

次にこの結果を、普段よく利用する系統によって分類したものが図2である。西賀茂地区では、利用する

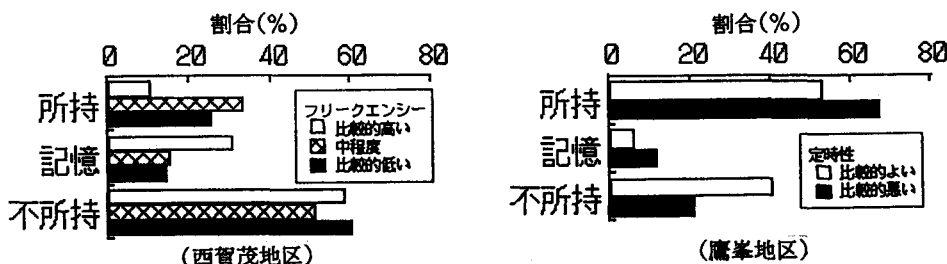


図2 利用するバス系統による時刻表所持率の違い

系統のフリークエンシーが低いほど時刻表を持っている割合が大きいがわかる。鷹峯地区では、2つの系統のフリークエンシーはほぼ同等であるのだが、定時性の悪い系統を利用する住民の方が時刻表を持っている割合が高い。これは、定時性が悪いために実際よりもフリークエンシーが低いように利用者が感じているからではないかと考えられる。

② 定時性に関する住民の評価

住民に図3のようなバスの定時性に関するデータを示して、評価してもらった結果が図4である。西賀茂地区で示したデータは、思っていた以上にバスは正確に運行されていると住民に判断されて

いる。一方鷹峯地区で示したデータのうちA欄の定時性の悪い系統については、データを見る前よりも評価が低下

している住民が多いことがわかる。

③ バスの改善策に対する住民の評価

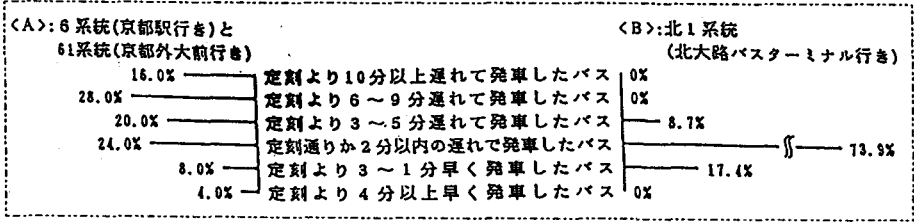
9つのバスの改善策を提示して、実施すればよいと思う順に1～9の番号をつけてもらった。これを順位の高いものから第1～第4の各グループに分けると表1のようになる。同一グループ内の複数の改善策は住民に同程度の評価を受けていることを示す。第1グループに属する2つの改善策の評価が高いことは、現状のバスの定時性やフリークエンシーから考えて当然の結果であろう。第3グループに「運賃を値下げする」という改善策が入っているが、これは裏を返せば、第1・第2グループに属する改善策及び第3グループの「時刻表を配る」という改善策は、値下げによって利用者の経済的負担を軽減すること以上に望まれていると言え、注目に値する。また、「時刻に規則性を持たせる」「時刻表を配る」といった比較的手軽な改善策が中位につけていることも目立っている。

5. おわりに

今後はこのアンケート結果を参考にして、現実のバス交通改善へとつなげて行きたい。

定刻より3分以上遅れて発車したバス	0%
定刻通りか2分以内の遅れで発車したバス	88.2%
定刻より2～1分早く発車したバス	11.8%
定刻より3分以上早く発車したバス	0%

(西賀茂地区)



(鷹峯地区)

図3 アンケートで住民に示したバスの定時性に関するデータ

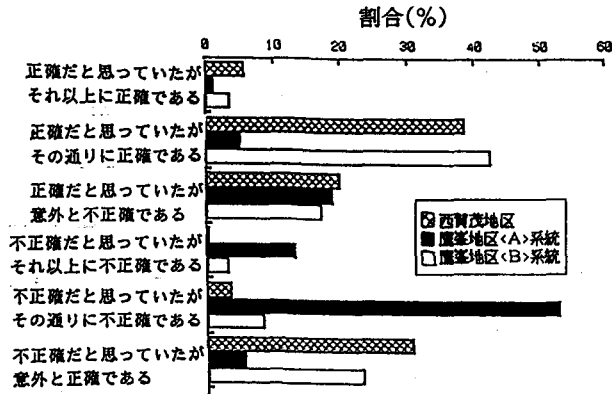


図4 バスの定時性に対する住民の評価

表1 バスの改善策のグループ分け

グループ	改善策
第1グループ	定刻通りに来るようにする 本数を増やす
第2グループ	乗り継ぎを改善する 時刻に規則性を持たせる
第3グループ	時刻表を配る 運賃を値下げする
第4グループ	バス停を整備する 車両を改善する 速度を速くする